

## OCU-GeoModeller Sample Boring Data

## 1. データファイル一覧とその概要

名前	名前
b1.txt	ChisoHanrei.txt
b2.txt	color_tbl.txt
b3.txt	fs.txt
b4.txt	logic.txt
b5.txt	PanelDiagram_X5400.png
BEDSample0001.png	PanelDiagram_X5600.png
BEDSample0001.XML	PanelDiagram_Y63000.png
BEDSample0002.png	PanelDiagram_Y63200.png
BEDSample0002.XML	PanelDiagram_Y63250.png
BEDSample0003.png	S1.grd
BEDSample0003.XML	S2.grd
BEDSample0004.png	S3.grd
BEDSample0004.XML	S4.grd
BEDSample0005.png	S5.grd
BEDSample0005.XML	SurfaceModel.dxf
BEDSample0006.png	SurfaceModel.jpg
BEDSample0006.XML	
BEDSample0007.png	
BEDSample0007.XML	
BEDSample0008.png	
BEDSample0008.XML	

- b1.txt ~ b5.txt：地層の上面標高を「X, Y, Z, 1」形式で保存したデータファイル。
- BEDSample0001(8).png：三次元表示用ボーリングモデル(イメージ)。
- BEDSample0001(8).XML：ボーリング交換用データ。<地層岩体区分>にボーリングモデルデータを記入している。
- ChisoHanrei.txt：当該地域の統一凡例とカラーコードを保存したデータファイル。
- color\_tbl.txt：地層の色コードを指定するファイル。パネルダイアグラムを推定する時に使用する。
- fs.txt：地層境界面の形状データファイル群を記載したファイル。サーフェスモデルの推定時と、パネルダイアグラムの推定時に共通して使用する。記載の順番は、S1.grd から開始し、最後は S5.grd である。
- logic.txt：地層の論理モデルファイル。サーフェスモデルの推定時と、パネルダイアグラムの推定時に共通して使用する。
- PanelDiagram-X5400.png：X 位置 5400m のパネルダイアグラム(イメージ)の推定例。その他に X(南北)が 5600m の位置、Y(東西)が 63000m、63200m と 632500m の 4 断面

を保存した。

- ・ S1.grd ~ S5.grd：地層境界面の形状を記載したデータファイル群で，サーフェスモデル推定時と，パネルダイアグラム推定時に共通して使用する。S1 が基盤層で，S5 は地表面である。
- ・ SurfaceModel.dxf：サーフェスモデルの推定例。
- ・ SurfaceModel.jpg：同上モデルデータを「V-nas3DViewer」で確認した結果。

## 2.実際にサーフェスモデルを推定した手順

順序	処理手順		特記事項	時間(分)
1	10.3.8	パラメータデータの作成処理	5層構造	10
2	10.3.1	入力データ変換処理	ボーリング8本	10
3	10.3.2	地層の論理モデル構築処理	5層構造	20
4	10.3.4	Terramod_BSによる地層境界面形状推定処理	地表面を除く4層(S1.grd ~ S4.grd)	30
5	10.3.3	標高データの取得処理	地表面(S5.grd)。50 × 40 = 2,000Pt	60
6	10.3.5	サーフェスモデルの推定処理		20
7	10.3.6	パネルダイアグラムの推定処理	4枚推定	20
8	10.3.7	ボーリングモデルの作成処理	ボーリング8本	10
			合計処理時間	180

上記の時間には，

<地層岩体区分>の統一凡例を作成する時間

統一判例に準拠して，ボーリング交換用データに個々の<地層岩体区分>を記入する時間は含んでいない。概ね，0.5/本程度は必要と思われる。

注 地表面の三次元形状データ(S5.grd。ワイヤフレーム)は，孔口標高から推定せず，国土地理院のウェブサイトから取得した。

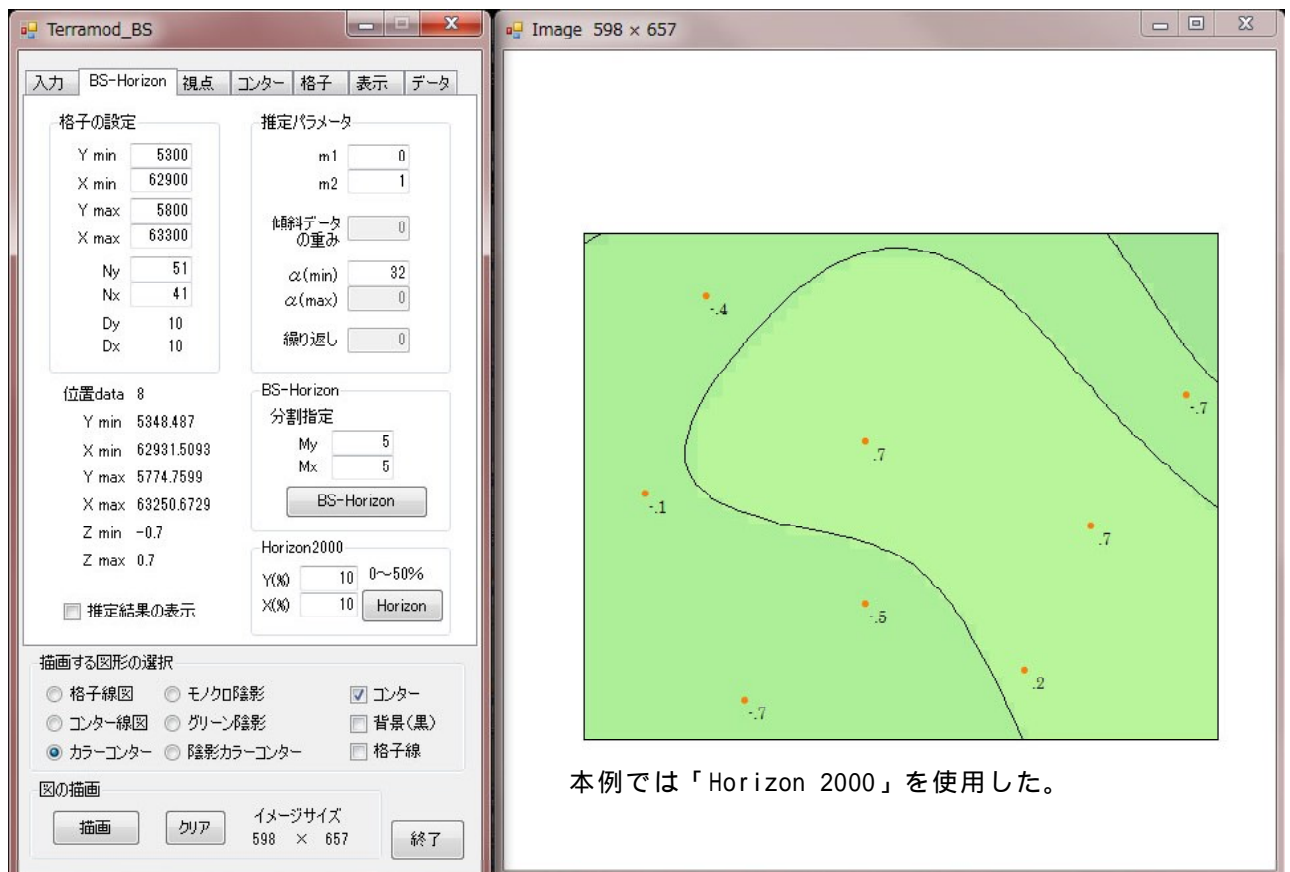
## 3.各処理に必要な入力・参照データファイルと出力データファイル

順序	処理手順		入力・参照データファイル	出力データファイル
1	10.3.8	パラメータデータ		ChisoHanrei.txt, color_tbl.txt, fs.txt
2	10.3.1	入力データ変換処理	ChisoHanrei.txt, BEDSample0001(8).XML	b1.txt(基盤), ~, b4.txt
3	10.3.2	地層の論理モデル		logic.txt
4	10.3.4	Terramod_BSによる	b1.txt, ~, b4.txt	b1.grd ~ b4.grd
5	10.3.3	標高データの取得		b5.grd
6	10.3.5	サーフェスモデル	logic.txt, fs.txt, b1.grd ~ b5.grd	SurfaceModel.dxf
7	10.3.6	パネルダイアグラム	logic.txt, fs.txt, color_tbl.txt, b1.grd ~ b5.grd	PanelDiagram_X5400.png, PanelDiagram_Y63250.png
8	10.3.7	ボーリングモデル	ChisoHanrei.txt, BEDSample0001(8).XML	BEDSample0001(8).png

#### 4. 主な処理画面や出力データ(イメージ)

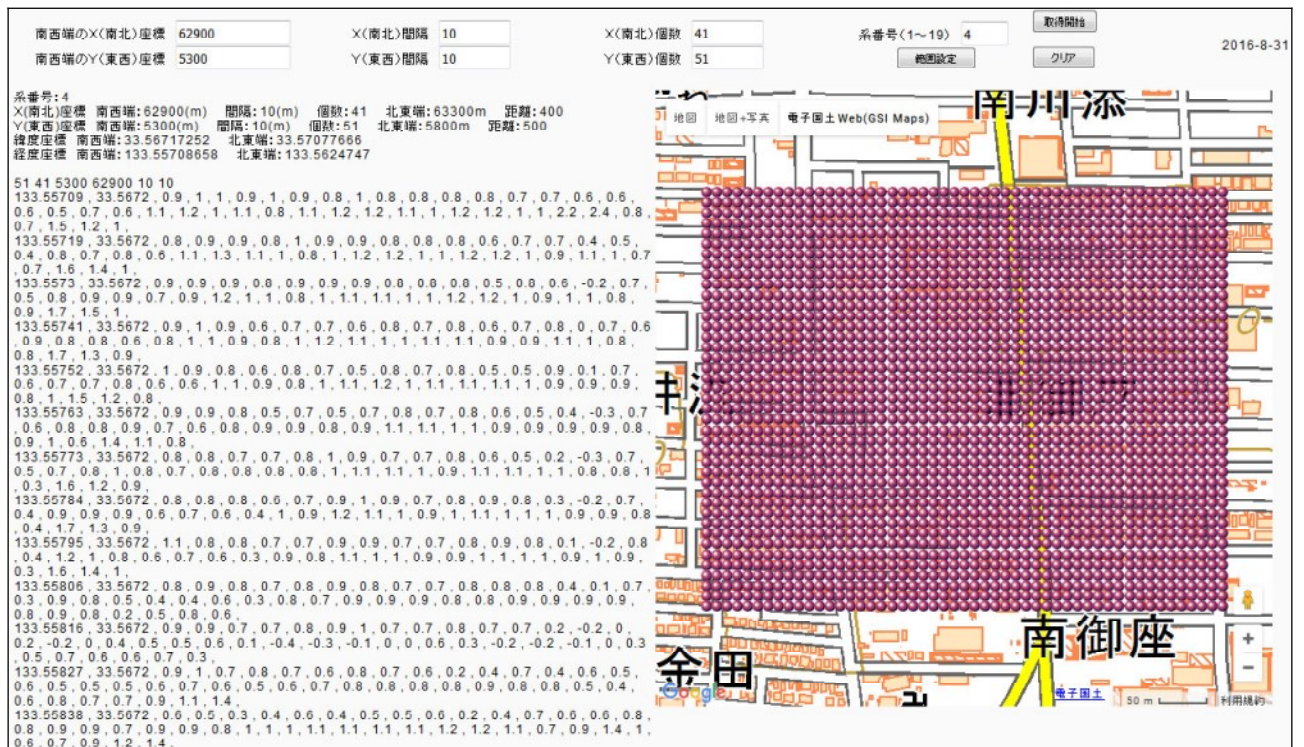


ボーリング位置。 全て架空であって実際とは大きく異なる。

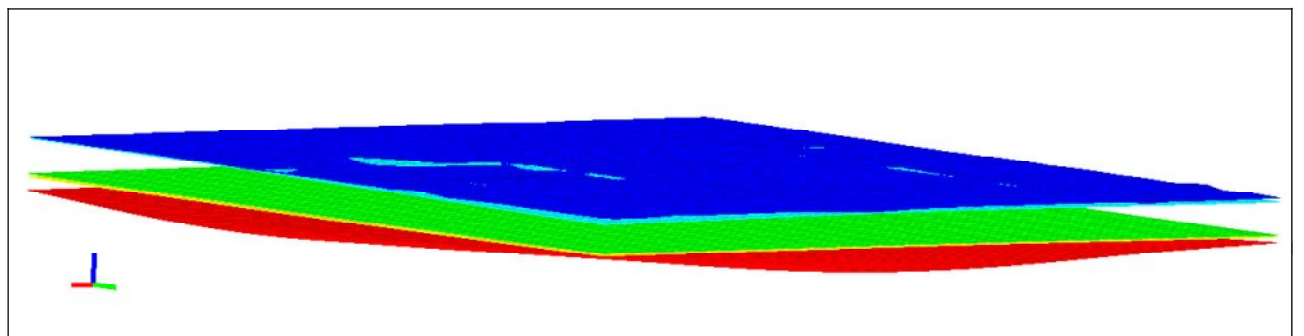


本例では「Horizon 2000」を使用した。

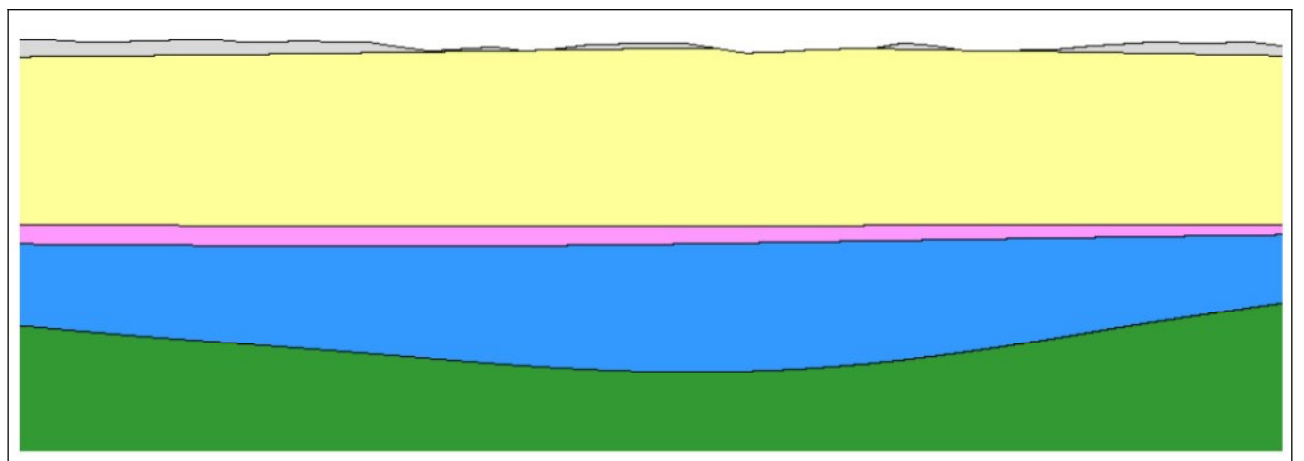
地層の三次元形状(ワイヤースケルトン)を推定するパラメータ(例)



地表面の標高を取得した画面(50×40 = 2,000)



注 各境界面の色は、ビューアが決定したデフォルトカラー。  
 「V-nas3DViewer」で三次元化したサーフェスモデル



注 各地層の色は、color\_tbl.txtにより指定している ソリッドモデル。  
 パネルダイアグラム(X5400m断面)